

# 「今、何の病気が流行しているか！」

## (川崎市感染症発生動向調査事業—令和5年第5週)の情報提供について

市内の定点医療機関から提供された感染症の患者発生情報をもとに市民提供情報である「今、何の病気が流行しているか！（令和5年第5週）」を作成しましたのでお知らせします。

令和5年第5週（令和5年1月30日から令和5年2月5日まで）

第5週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）インフルエンザ 2）感染性胃腸炎 3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。

インフルエンザの定点当たり患者報告数は12.62人と前週（11.30人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は8.86人と前週（8.51人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.46人と前週（0.35人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

今週のトピックス

“インフルエンザによる学級閉鎖が増えています！”について取り上げました。

川崎市におけるインフルエンザの定点当たり報告数は、令和5年第5週（1月30日～2月5日）に12.62人となり、流行発生注意報基準値を超えた前週（11.30人）から更に増加しました。年齢階級別では、5－9歳が41.4%と最多で、次いで0－4歳が22.2%であり、15歳未満の報告が全体の報告の81.2%を占めています。また、市内においては、インフルエンザによる第5週の学級閉鎖報告数が、小学校が11件、中学校が12件の計23件となり、今シーズンで最多の報告数となりました。

インフルエンザの流行は、学童を中心に始まり、その後高齢者等へと感染が拡大する傾向にあります。今後の流行状況に注意し、必要に応じてマスクの着用や手指衛生等の感染対策を徹底しましょう。

川崎市感染症発生動向調査事業では、感染症のまん延の防止と市民の健康の保持に寄与するべく、市内の定点医療機関（小児科定点37施設、インフルエンザ定点61施設、眼科定点9施設、基幹定点2施設）等から報告された感染症発生状況をもとに集計を行い、市内の感染症の発生状況の正確な把握と分析、市民や医療関係者への情報の提供を行っています。

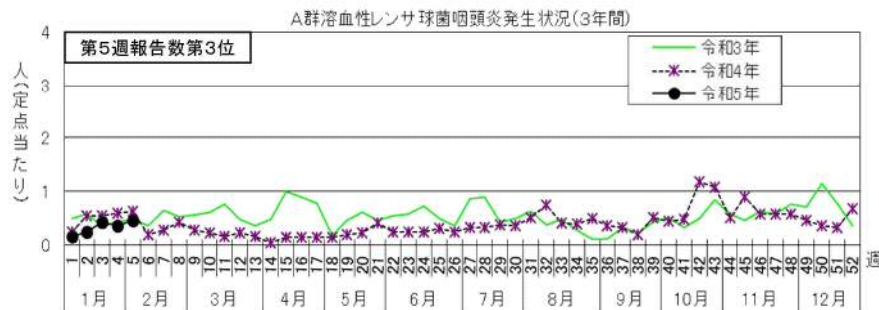
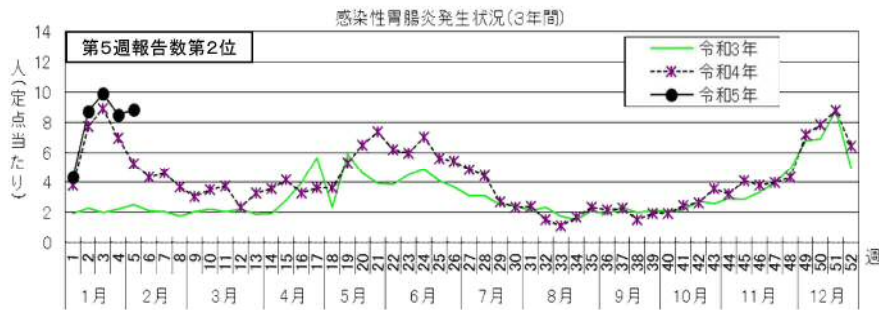
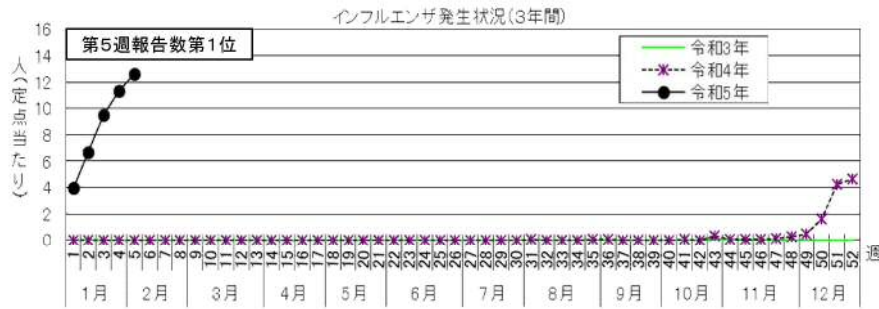
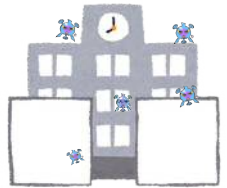
連絡先 川崎市健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当 野木  
電話044（200）2446  
川崎市健康安全研究所 三崎  
電話044（276）8250

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年1月30日（月）～令和5年2月5日（日）〔令和5年第5週〕の感染症発生状況

第5週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) インフルエンザ 2) 感染性胃腸炎 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。インフルエンザの定点当たり患者報告数は12.62人と前週（11.30人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は8.86人と前週（8.51人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.46人と前週（0.35人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

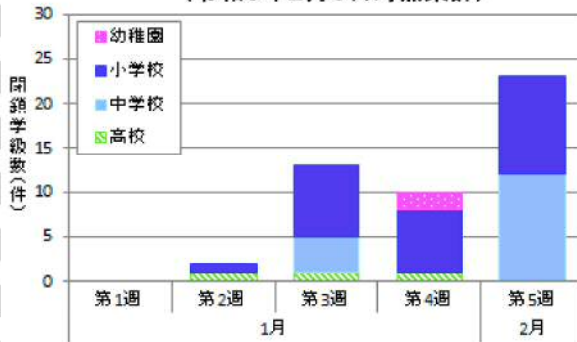


## インフルエンザによる学級閉鎖が増えています！

川崎市におけるインフルエンザの定点当たり報告数は、令和5年第5週（1月30日～2月5日）に12.62人となり、流行発生注意報基準値を超えた前週（11.30人）から更に増加しました。年齢階級別では、5-9歳が41.4%と最多で、次いで0-4歳が22.2%であり、15歳未満の報告が全体の報告の81.2%を占めています。また、市内においては、インフルエンザによる第5週の学級閉鎖報告数が、小学校が11件、中学校が12件の計23件となり、今シーズンで最大の報告数となりました。

インフルエンザの流行は、学童を中心に始まり、その後高齢者等へと感染が拡大する傾向にあります。今後の流行状況に注意し、必要に応じてマスクの着用や手指衛生等の感染対策を徹底しましょう。

川崎市内の学校等における学級閉鎖実施状況 (令和5年2月6日時点集計)



川崎市におけるインフルエンザ年齢階級別発生状況 (令和5年第1週～令和5年第5週)

